

2021年10月～12月活動報告

天塩町地域おこし協力隊 野口 裕康

着任の経緯



名古屋市出身。大学時代は横浜市で過ごし、応用物理学を学ぶ。専攻はデジタル信号処理。多様な背景をもつ人々との交流を通して外国の文化に興味を持つようになり、バックパッカーとしてあまり日本人の訪れない国々や紛争地帯などを中心に巡る。帰国後は情報システムに関する業務に従事していたが、以前から観光とデジタル技術によって日本と海外を結びたいという目標があり、旅行業資格を取得後、今後観光分野の発展が見込まれる天塩町に10月に着任した。

活動領域

(以下の4分野から、町の活性化に貢献可能なより詳細なプランを決定する)

情報発信分野

- ・ 地域情報の町外への発信
- ・ 地域ブランド力向上を目的としたコンテンツ（Webサイト、動画、ポスター等）の制作と発信
- ・ 多言語による情報発信（英語、中国語）
- ・ イラストやロゴ等のデザイン、写真の編集（Illustrator、Photoshop）

情報技術分野

- ・ 情報発信の効率化や観光分野への応用を目的としたアプリケーション開発
- ・ 予約システム等のWebアプリケーションの開発

観光振興分野

- ・ 天塩町および周辺地域の自然環境を活かした観光コンテンツの創出
- ・ インバウンド観光受入体制の整備
- ・ 総合旅行業務取扱管理者として地域の観光関連事業への関与

教育分野

- ・ 高大連携教育（天塩高校 × 筑波大学）のサポート
- ・ プログラミングや情報発信等の分野を中心としたICT教育

10～12月の活動内容

01

農林水産省 北海道農政事務所 主催

「受け継ぎたい北海道の食」動画制作

過去2年間にわたって、天塩町地域おこし協力隊により「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテストへ映像作品が応募されており、本年は退任した協力隊に代わって動画の制作を行った。コンテストへの参加を通して、天塩町について学び、地域住民と交流することも目的とした。天塩町スローフードの会の伊藤千枝子氏の協力のもと、天塩町北部の内陸に位置するウブシ原野で開拓期の人々の食を支えていた栄養バランスの良い汁料理をとり上げた。制作にあたり、当時は交通が未発達であったため地域で季節ごとに手に入る食材をすべて使っていたこと、および貴重な栄養源として天塩の特産であるしじみを用いていたことをアピールする点とした。具材の野菜は町内の畑で収穫、豆腐も大豆から手作りし、その過程も伝えるような構成とした。また、コンテストの趣旨に沿うよう、調理の手順説明も加えた。完成した動画は、主催側が選考結果発表等を行った後（2月頃）に協力隊 Youtube チャンネルおよびその他メディア上で公開する。



動画中の収穫シーン



畑での撮影風景

02

天塩高等学校

振老旧河川フィールドワーク参加

天塩高等学校第1学年の「総合的な探究の時間」授業として、天塩川流域の生物多様性の理解や、かしわの森における野鳥観察が行われ、当日の写真撮影等のサポートのため参加した。



かしわの森



植生の説明

03 天塩高等学校 × 筑波大学 高大連携ワークショップ

天塩高等学校第2学年生徒と筑波大学の澤研究室（システム情報工学研究群）が共同で地域の活性化についてのフィールドワークを行い、筑波大生の指導のもと高校生が調査結果をまとめ、後日開催されたシンポジウムで成果を発表した。本年は筑波から来町しての開催となり、大学院生の受け入れ準備やフィールドワーク当日の町内移動サポート、および記録映像の撮影等を行った。調査活動の様子は協力隊 Youtube チャンネル上で公開している。



FW 開始前の説明



旧更岸小学校での調査

04 エゾニュー料理開発の会合

町内および近隣地域で見られる植物「エゾニュー」を使って新たな料理の創作を目指す会合（蝦夷丹生倶楽部）に参加し、そのままの状態では強い苦みのため食用に適さないエゾニューを食材として活用するための下処理や、どのような料理に応用できるかを学んだ。



北海道新聞（11月2日）



留萌新聞（10月27日）

05 芸術学部生卒業制作を題材にした映像制作

東京都の大学で写真を専攻する学生が卒業制作の一貫として天塩高等学校の日常を題材にして撮影を行った。何度も天塩町に滞在した経験のある学生によるものであるため、この撮影の様子を本人の声とともに記録映像として残すことは今後の町のPRに有効活用できる可能性があると考え、約4分の映像として制作した。関係者に最終的な許諾を得たうえで、協力隊 Youtube チャンネル等で公開を行う。



学生による生徒の撮影



記録映像の撮影

06 NHK「北海道スタジアム 秋ノ陣」出演

11月20日夜にNHK総合（北海道ブロック）で放送された番組「北海道スタジアム・秋ノ陣」に道内179市町村の一つとしてオンライン中継により出演した。番組後半では町のマスコットキャラクターであるてしお仮面も登場したが、多くの市町村の同時出演ということもあり大きく映ることは無かったが、他の市町村の魅力化の取り組みを知ることができた。



役場からオンラインで参加

07 啓徳小学校「総合的な学習の時間」授業

啓徳小学校第5・6学年「総合的な学習の時間」の、将来なりたい職業についての調べ学習の授業にオンラインインタビューの形式で参加し、コンピュータを使った仕事を目指す生徒からの質問や、協力隊の仕事について回答・紹介を行った。後日、生徒によるまとめの発表の授業参観時に初めて啓徳小学校を訪問し、今後も協力することのできる機会を探っていくという方針を確認した。

08 ほっかいどうチャレンジピッチ参加

留萌管内の地域の魅力や活性化を目指す活動についてディスカッションを行うイベント「ほっかいどうチャレンジピッチ in るもい」が留萌振興局にて開催され、意見交換等出席者として出席した。留萌管内で地域づくりに取り組む若手の自治体職員、第一次産業従事者、協力隊等により地域振興の活動実績や地域の現状についてグループに分かれ議論を行った。



全体に対する発表



グループでのディスカッション

09 天塩高等学校 PowerPoint スライドデザインに関する講義

天塩高等学校第1学年の「総合的な探究の時間」および「情報科目」の授業時間を利用し、プレゼンテーション用アプリケーション PowerPoint を使用する際の基本的な技術、およびスライドデザイン時のフォント・カラーに関する基礎的な事項について講義を行った。2時間という時間的制約もあり、すぐに実践できる内容とした。



スライド作成指導

10 クリスマス大抽選会配信

天塩町観光協会によるクリスマス大抽選会のくじ引きに際し、公正な抽選を行ったことを示すため、抽選の様子および当選番号の発表を動画により公開した。動画は協力隊 Youtube チャンネル上で視聴できる。

11 戦略的情報発信研修への参加

自治体や地域のPRを効果的に行い、関係人口・交流人口の増加するノウハウを学ぶ戦略的情報発信研修が苫前町にて行われ、日本経営協会の藤本氏による講義および他自治体の職員と共同で実践演習を行った。効果的なキャッチコピーの作成や文章の書き方から、情報発信に利用する写真の撮影法など多岐にわたり学ぶことのできる機会となった。

12 天塩高等学校 「総合的な探求の時間」発表会

天塩高等学校第1学年および第2学年の生徒により、総合的な探求の時間として取り組んできた地域学習の成果発表が行われ、本年度の活動内容および来年度に向けての各グループの展望について認識する機会となった。現在第1学年の生徒が来年度は筑波大学との高大連携に参加することになると思われるが、その際にも積極的にサポートを行っていきたいと考えている。



発表会当日の会場（高校体育館）

13 道の駅しじみ汁提供のサポート

昨年度につづき、主に宗谷岬方面を年越しツーリングで訪れるライダーに向けたしじみ汁の提供が道の駅にて12月30～31日に行われた。企画と全体の運営は他の協力隊によって行われ、そのサポートとして機材やポスターの設置等、補助的な業務を行った。

14 町内イベントへの参加

天塩町内で開催された以下のイベントに参加した。

- ・かわまちフィールドワーク
- ・てしお塾

15 その他研修会・セミナーへの参加

観光・インバウンド・情報発信に関する以下のセミナーに参加した。

- ・るもい未来観光創生セミナー（留萌観光協会）
- ・インバウンド維新セミナー（株式会社グローバルパワー・株式会社やまごころ）
- ・自治体連携市民向け映像制作講座（合志市クリエイター塾）
- ・インバウンド再誘客とDX（事業構想大学院大学）
- ・地域広報から考えるファンマーケティングのはじめかた
（一般財団法人地域活性化センター）
- ・J N T O 認定外国人観光案内所オンラインセミナー（日本政府観光局）

活動の総括および今後検討すべき取り組み

着任後は、まず天塩町の各地域について理解を深め、住民と積極的に交流することを目標として活動した。大部分は市街地での活動となったため、今後は町の魅力発信に利用できる写真や動画撮影も兼ねて町内の他地域を訪れ、観光振興の戦略策定を見据えた分析をマーケティングの観点から行い、レポートとしてまとめていきたい。

今後の活動として、以下のアイデアの中から実際に実現可能なものを絞り込んだ上で取り組んでいく。

- ・協力隊 SNS や Youtube チャンネルでの継続的な情報発信のためのコンテンツ制作
- ・試験的に作成した地域ブランド力向上を目的とした Web サイトの正式な運用開始
- ・インバウンド観光受入体制整備のための、観光パンフレット等の多言語化
- ・オンラインでの日本国外に対する情報発信
- ・オンライン予約システムや電子宿泊者名簿等、デジタル技術を用いた町内宿泊施設における非接触対応やインバウンド対応体制の構築
- ・モーショントラッキング、リップシンク技術を用いてマスコットキャラクター（てしお仮面）のアニメーション化を行い、情報発信のために活用